
山 事 研 會 報

山梨県公立小中学校事務職員研究会 編集発行人 調査広報部

第 20 号 平成 21 年 3 月 18 日発行

平成 20 年度 第 40 回 関東地区学校事務研究大会 (山梨大会) 無事終了



沢山の人に支えられ無事終了することができました。ご協力ありがとうございました。

関東地区学校事務研究大会内容報告

《1 日目》全体会・・・平成 21 年 1 月 29 日（木）

【文部科学省行政説明】 初等中等教育局

初等中等教育企画課 教育公務員係 係長 佐野壽則 様

「これからの事務職員に大きな期待をしている」この一言から講演が始まった。これからの教育の鍵を握るのは、正に事務職員である。

期待される理由として、現在、教員の多忙化の原因ともいわれる学校全体の事務量の増加、学校裁量の拡大への対応、説明責任を伴う地域や外部への対応など、これらに対処することがあげられる。文部科学省では、学校の校務運営体制の改善方策として、事務職員の職務を明確化すること、事務長の設置体制をとること、事務の共同実施などにより事務の合理化・効率化を図ることをあげ、それにより、学校現場の教員の事務負担軽減を推進する方針を示しているという。

平成 21 年 4 月 1 日の省令化を目指している事務長の役割としては、学校事務全般に関する執行管理や連絡調整、職員への指導助言。校長等から任せられた校務事務の決定遂行及び体外的な連絡調整。共同実施組織での責任者及び共同実施職員への指導助言や学校間の連絡調整及び体外的な交渉などが

ある。また、現在進行中の平成21年度予算案として、事務職員の定数改善として73人（計799人）の計上を行うこと、学校教職員のあり方及び教育調整額の見直し等に関する作業部会を設置し、議論が行われている。

今後の学校のあり方として、教員と教員以外の専門的支援スタッフがそれぞれの役割を果たしつつ、効果的なマネジメントを行う中で、分業とチームワークによって学校運営を進めるといった形が考えられる。その中で事務職員は、学校内の様々な職種の人、及び、地域の人や専門のスタッフ等の間を繋いでゆく役割を果たして行くことになるだろう。

現在、事務長の省令化・事務職員の定数改善を進めているのも、事務職員への期待の現れである。是非、積極的に活躍して、学校のパフォーマンスを最大化する役割を果たして欲しい、と締めくくった。

（詳しくは、記録集をご覧ください。）



【記念講演】 ルネサス高崎女子ソフトボール部

総監督 宇津木 妙子 様



ソフトボールを通して、若い選手に伝えたいと考えていること、人生の中で大切にしていること、監督として選手を育ててきた中でのエピソード、また選手に教えられたこと、また、北京オリンピックでのエピソードなども交えてのお話。宇津木監督の夢に向かって努力する姿勢やその生き方にも圧倒された講演でした。

《2日目》分科会・・・平成21年1月30日（金）

【 第一分科会 千葉支部 人と人をつなぐ情報マネジメント
安全・安心な学校運営のための情報管理へのアプローチ】

学校教育に対して保護者や地域は、量から質的向上を求めている。事務が学校教育とどうかかわっていいのか。学校経営に参画していけるような学校事務の在り方について、今は高いレベルを求められている。

学校の情報管理についてはたくさん問題や



課題があり、まずは管理職、教諭の意識改革が不可欠である。そこで学校唯一の行政職である事務の果たす役割は大きく、事務が情報を発信したり説得したりアクションを起こす必要がある。安全安心な学校を目指し、職場で信頼関係を築き、日常業務でお互いの力量を高め問題を解決して欲しい。

【第2分科会 「変わる学校 変える私たち」

－教育活動を支える学校事務組織をめざして－（茨城支部）】

教育指導部門に重点がおかれ、教育支援（管理・渉外）部門との連携体制が十分整備されていない現状を踏まえて、「学校事務組織」を校内に編成し、学校事務職員が学校経営に参画することを目的とした取り組みが提案された。特に課題を多く抱えている会計事務に焦点を合わせ、会計事務組織を編成して第一歩を踏み出した2校の実践報告があった。

会場からは、様々な実践例や現場での問題点などの意見が出された。教員の負担軽減になったことはわかるが、事務職員にとってはどうだったのかという質問に対しては、来年度以降に組織の構築→教職員の負担軽減と段階を追って進めていくという返答があった。助言者からは、報告に対して課題を確実に捉えきちんと実践されているとのお話があった。また、運営参画や教育業務の支援については、どこまでやるのかを考える必要がある。

これからの学校事務職員には「調整力」が必要とされるという助言もあった。

【第3分科会 「手をつなごう そこに新しい学校が」

－共同実施を通して－（山梨支部）】

山梨県富士吉田市で実施されている共同実施について発表が行われた。

「他県の共同実施の取組」「事務職員が出来る教育支援」の2本を柱に討議を行い、各県の共同実施の状況についても情報交換を行った。教育支援を行うためには、まず現在の事務業務を見直し（処理能力のアップ、事務量の削減等）情報知識を活用し、チームワークで取り組むことが必要ではないか、との意見も出された。

助言者からは、国レベルでの標準的事務分掌が学校事務職員にはない現在、自分たちは何をめざしているのかを明確にする必要があるのではないかと。専門性を極めるのか、役職を得たいのか。何を目的にするのかが、定まらないと先が見えないので



はないかとの話もあった。

関プロ山梨大会準備委員長

退任あいさつ

関プロ山梨大会には、全国各地から 754 名の仲間と、文科省を始め教育関係者の参加を得、1 月 29 日～30 日の 2 日間にわたり盛大に開催することができました。山梨県内においても、約 200 名の事務職員と県教委教育長を始め県教委・甲府市教委の課長・担当者や校長会など多数の方々において頂きました。

文科省の行政説明は、事務長制度にかかわった直接の担当者から時期を得た貴重な話と、宇津木妙子氏による、私たちの胸を打つ感動の実践のご講演は、他県の皆様にもご好評を頂きました。また、千葉、茨城、山梨の分科会も、しっかりした取り組みの中、解りやすく工夫をこらしたプレゼンテーションと、多くの方が討議に参加できる運営が行われました。

この大会は、2 年間にわたる山梨県公立小中学校事務職員研究会の総力を挙げての取り組みと、多くの他団体や教育関係機関のご協力により開催することができました。特に県教委や市教委の担当者には、自分の大会のように親身に面倒をみていただき、来賓や会場の手配にご援助いただきました。また、会員の皆様には、多大な負担をおかけしましたが、分担を確実にこなして、足りないところを補いあいながら、慣れない仕事、初めての経験を立派にやり遂げて頂きました。

山事研発足 10 年を経過し、この山梨大会で成し遂げて得た山事研の組織力と、会員の仲間意識と団結力は、今後の教育変動への対応にとって重要なステップとなることと確信しています。成就感や充実感が、大会終了とともに薄れてしまわないために、一人職場の閉塞感を破り、互いに連携し新しい目標に向かっていけるような、希望が見いだせるような、事務職員組織に一人一人が作り上げていくことを期待しています。

最後に、いつも私の周りには仲間の皆様がいました。私が言わなくても率先して協力してくれました。温かく見守ってくれました。私一人の力ではありません。言葉は掛けられませんが支えて頂いた皆様に感謝し、心より御礼申し上げます。これで関プロ山梨大会準備委員長を解任させていただきます。今日までの **42 年間の事務職員生活に悔いなし**。これからもまた「人生創造」です。

平成 21 年 3 月 9 日

中村 輝

